

授業計画案 「国際関係論」 (Introduction to International Relations)
<p>■授業担当者：池田光穂</p>
<p>■履修対象/Eligibility：1年次以上</p>
<p>■開講時期/Schedule：(半期)</p>
<p>■講義室/Room：(未定)</p>
<p>■講義題目/Course Name：国際関係論入門</p>
<p>■授業の目的と概要/Course Objective：</p> <p>この授業では国際関係論全般にわたることを学びます。つまり(1)国際間の政治的問題を扱う領域(歴史および政治理論)、(2)具体的な地域情報にもとづく地域研究(マクロ・メゾ・ミクロという地球レベルから大陸的な領域から国家間関係、国内領域さらには異文化接触がある局所的な社会空間までの事例研究)および(3)グローバル・イシューと呼ばれる国際間での共通課題や難問への取り組み(国際レジーム、難民、ジェンダー、国際機関、紛争解決、不平等、宗教、ポスト植民地状況、人種問題、人間の安全保障等)の3つのテーマ群で構成される授業からなります。国際関係に関わるニュース・メディアからのタイムリーな事件やテーマを紹介しながら、授業内容に有機的に関連づけます。そのため授業の履修中あるいはそれ以降も、国際政治やグローバル・イシューに関心をもち〈グローバルに考えローカルに行動できる学生〉が自主的に〈問題にもとづく学習〉方法やスキルを〈持続可能状態〉を維持できることが、この授業の目的です。</p>
<p>■学習目標/Learning Goals：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論にまつわる重要なキーワードや術語が授業ごとに2～3語示されます(全期間で約30語彙程度)。授業が終わった時点で、その8割の用語について理解し、君たちの友人——つまり同じくらいの理解力をもった学生——にわかりやすく説明することができるようになる。 2. 初めて知った外交、紛争、国際関係に関する国内外のニューススリッを見て、学んだ術語を発見した際には、必要な情報を入手できれば、それらの事件や出来事の内容について、門外漢の友人や家族に対して解説することができるようになる。
<p>■履修条件・受講条件/Requirement; Prerequisite：</p> <p>どなたでも受講可能です。ただし、教科書を利用しますので、細い引用等は板書を省略し、当該箇所を口頭により説明することがあります。日本語で授業しますが、英語の教材(DVDや新聞資料)を一部利用します。</p>
<p>■特記事項/Special Note：ありません。</p>
<p>■授業計画/Special Plan (回) 題目/Title、内容/Content</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル化のなかの私たち(導入部)：授業運営のポリシー、講師自己紹介、そしてこの授業のスケジュール、授業における教師と学生間の約束事などについて解説します。教科書該当箇所は(序章)。 2. 国際関係の歴史と変化：ペロポネソス戦争の記録(ツキュディデス)と孫子の兵法は紀元五世紀前後に生まれた国際関係論や理論の古典です。戦争や紛争と政治理論、人間の道徳、価値規範への服従などのテーマが浮上します。ホッブスやルソーの社会契約論も重要です。教科書該当箇所は(4章1)。 3. 冷戦期(1918-1989)からポスト冷戦期の経済危機へ：現代の国際関係の成り立ちにおいて、冷戦と冷戦以降は重要な区分ですが、同時に冷戦秩序が異なった形で紛争を継続しているという考え方があります。グローバル政治の現状について把握します。教科書該当箇所は(1章1と2)。 4. リアリズム：リアリストは「国際政治問題はカオスである」という点から出発します。冷戦時代からの基本的な政治理論のスタンスで保守派の古典的学派となっています。教科書該当箇所は(1章)。 5. リベラリズム：政治リベラリズムの思想の源泉は古典派経済学まで遡れますが、リアリズムとの緊張関係のなかで洗練された政治思想にまで進化したのも事実です。教科書該当箇所は(2章)。 5. グローバルシティズンシップ論：冷戦後のさまざまな民主運動の担い手(アクター)として登場してきたのが市民運動家たちです。現代の課題は、地球レベルでのデモクラシーを推進することにあります。構築主義(constructivism)はその上位概念です。教科書該当箇所は(6章)。 7. 紛争と戦争：国家間の戦争のスタイルが登場したのはウェストファリア条約以降の国民国家体制のもとです。しかし、長期間の間に、地方主義と共に、ゲリラ運動や、武装闘争という政治運動が生まれ、やがてテロリズムという政治手法が現代では自己目的化するという大変貌をとげます。平和を考えるためには、その対立概念である戦争や紛争の概念把握は不可欠です。教科書該当箇所は(3章)。 8. 平和学：ガルトウングの構造的暴力から地域紛争やジェンダー間による搾取などがない足下からの平和学

<p>を構想します。A・センのエンタイトルメント論も紹介されます。教科書該当箇所は (3章と6章)。</p> <p>9. 国際法秩序と国際連合：第1次大戦以降の国際連盟の失敗と全体主義の誕生，その反省から生まれた第二次大戦後の国際連合ならびに関連機関の成立について考えます。教科書該当箇所は (3章～6章の該当する箇所)。</p> <p>11. 国際レジームと安全保障：難民問題，宗教紛争，紛争解決やテロとの戦いなどのトピックスを取り扱います。教科書該当箇所は (2章1)。</p> <p>12. グローバル・イシュー1：金融経済とテロリズムのトピックス。関連文献を事前に知らせます。</p> <p>13. グローバル・イシュー2：ジェンダーと環境のトピックス。教科書該当箇所は (5章) です。</p> <p>14. グローバル・イシュー3：ポスト植民地時代における人間の安全保障と人権のトピックス。教科書該当箇所は (6章) です。</p> <p>15. 国際関係と私たちの未来について (結論)：この授業で考えてきたことをまとめます。</p>
<p>■授業形態／Type of Class： 講義。ただし受講者人数によりミニ・ディスカッションとプレゼン・フィードバックの実施も考慮します。</p>
<p>■授業外における学習／Independent Study Outside of Class： 教科書の関連する箇所を指示しており，事前の読解や予習が必要です。復習では，授業で触れた重要なキーワードを，新聞記事 DB やネットによるニュース検索を通して事例を収集しておくこと，次回の授業への取り組みへの励み (=学習者のインセンティブ) になります。</p>
<p>■教科書・教材／Textbooks： 著者名／Author：山田高敬・大屋根聡 (編) 教科書名／Title：『グローバル社会の国際関係論』 出版社名／Publisher：有斐閣 (2006年) ISBNコード／ISBN：9784641173255</p>
<p>■参考文献／Reference： - John Baylis et al. eds., "The globalization of world politics: an introduction to international relations." 6th ed., Oxford University Press, 2014. ISBN: 9780199656172 -池田光穂 (編著) 『コンフリクトと移民』大阪大学出版会, 339pp. 2012年 ISBN: 9784872594034</p>
<p>■成績評価／Grading Policy： 8割以上の出席を義務づけます。予習を伴った出席 (20%)，レポート (20%)，最終試験 (60%)</p>
<p>■コメント／Other Remarks： 国際関係論を学ぶための資料は多言語・多文化領域にわたっている。しかし，どの言語においても確実な資料分析能力すなわち読解力が欠かせない。授業スケジュールに従い教科書を精読し，かつ関連文献を入手し短期間に読解することが必要になります。毎回の予習を通して教科書に書かれていることを十全に理解することが，最初の学習目標です。次に授業で話されること，議論されたことを記録しまとめる (=書く) 能力を養いましょう。授業終了後に，興味をもったテーマについて短いエッセーを書く習慣をつけること，これが二番目の学習目標です。授業ではこの2つを常に心がけるようにしてください。</p>
<p>■キーワード／Keywords：グローバリゼーション，政治理論，紛争解決，人間の安全保障</p>
<p>■受講生へのメッセージ／Messages to Prospective Students： 私の専門分野は，国際協力に関する医療人類学や開発人類学という学問で，主たるフィールドはラテンアメリカ，東南アジアおよび日本です。私の国際関係論に関する知識は，開発協力 (JICA などの ODA)，またグアテマラ内戦やその後の先住民運動の研究を通して，8年近く (国際間ならびに地域の) 紛争解決についての知識を得てきました (→参考文献)。したがって，私の国際関係論へのアプローチは政治学理論によるトップダウン・アプローチよりも，地域におけるミクロな事例研究を積み重ねるボトムアップ・アプローチによるものです。そこで明らかになるのはポスト植民地時代における国民国家の可能性と限界を明らかにすることです。しかし，地球丸ごとを神の眼でみるようなことは誰にもできません。私が培ってきた人類学という分野と研究対象である政治理論という異なる方向性をもった2つの想像力を駆使しつつ，皆さんと一緒に国際関係論を学んでいきたいと思えます。</p>